

奈良文化財研究所の発掘現場に参加して

大韓民国国立慶州文化財研究所と奈良文化財研究所は、2006年以來、発掘調査交流を続けています。今回は、慶州から7人目の奈文研への派遣となりました。滞在中には、2ヶ所の発掘に参加しました。発掘調査においては、個人の調査能力も重要ですが、研究員と作業員との意思疎通が何よりも大事で、遺跡に対する歴史的・考古学的理解の問題もあり、外国人である私が日本の発掘現場に参加することに負担を感じていました。しかし実際には、研究員の方々ののおかげで困難を感じることはありませんでした。

甘樫丘東麓遺跡では、現場での調査内容とともに遺跡の歴史的背景を大変興味深く感じました。絶対権力を誇った蘇我氏に関連する遺跡であり、発掘現場で見える遺構と遺物一つ一つに飛鳥時代の痕跡を探そうとしていました。平城京跡の発掘現場は、平城宮の造営過程を推論できる遺跡であり、これも意味深いものでした。遺跡を体感しながら日本の古代文化への理解を一步進めることができ、また奈文研の歴史にふさわしく堅固に体系化された調査システムを直接体験できたことは、今後の私たちの調査に大きな助けになると思います。

滞在中、二度の発掘調査現地説明会がありました。ともに悪天候にもかかわらず、数百名の一般の方々が現場に訪れたこと、また悪条件に屈せず準備する奈文研の職員の方々の姿に驚きを禁じ得ませんでした。その他にも、資料調査と埋蔵文化財研修への参加など、様々な活動に参加できました。現地での生活に不便のないよう、様々なご配慮を下された奈文研の方々に心から感謝します。

(現・国立羅州文化財研究所 権 宅章)

(日本語訳：都城発掘調査部 庄田 慎矢)



所内での講演会の様子